

安城の歴史を現代に伝える情報誌

# れきしみち

2024.10  
No.134

P2

特集

特別展

## 国絵図の世界

～描かれた江戸時代の三河～

P4… 特集 特別展「地震と災難－宝永地震から三河地震まで－」

P6… 新連載 安城にゆかりのある人々1

P7… 松平シンポジウム・展覧会関連イベント・秋の催し物案内

P8… さとまつり/市民ギャラリーよりお知らせ



日本志東海部 三河国地図 (西尾市岩瀬文庫蔵)



三河美濃国境線絵図 (愛知県図書館蔵)



国絵図で旅する  
300年前の三河。

ANJO CITY MUSEUM OF HISTORY  
安城市歴史博物館

れきしみち No.134 令和6年10月発行 編集・発行 安城市歴史博物館

(指定管理者：安祥文化のさと地域運営共同体)

安城市歴史博物館 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地 TEL:0566-77-6655



5日・6日 [土][日]

商品券など  
豪華景品が当たる  
富突き  
※雨天時  
博物館にて開催

6日 [日]

和太鼓競演  
※雨天中止

第19回

安祥文化の

# さとまつり

6日 [日]

火縄銃演武  
※雨天中止

令和6年  
10/5土6日  
9:00~16:00

会場

### 安祥文化のさと

- ・安城市歴史博物館
- ・安祥公民館
- ・安城市民ギャラリー
- ・安祥城址公園
- ・安城市埋蔵文化財センター

同時開催

第33回 市民陶芸まつり 会場 安祥公民館 (☎0566-77-5070)

10月5日(土)9:00~16:00 10月6日(日)9:00~15:00

作品展示

公民館の自主グループ等の  
作品を展示します。

陶芸作品チャリティーバザー

市内の陶芸グループ等にご協力いただき、  
色々な陶芸作品を手ごろな価格で販売します。



プログラム (赤字は有料イベント) ▶ 詳細・申込み等はお問合せください。(TEL:0566-77-6655) ※都合により日時・内容等を変更する場合があります。ご了承ください。

石舞台 安祥城址	5日	■殺陣ショー ■三河万歳披露	※雨天中止	市民ギャラリー	5日	■桜井麻作り教室 ■歴史団体発表 ■土器作り教室	歴史博物館	6日	■歴史を楽しく学べるカードゲーム History大会&体験会
	6日	■棒の手演武 ■子ども武者行列「いざ!安城合戦!」	※雨天中止		6日	■ステンシルで小物づくり体験		5日 6日	■花押はんこづくり ■約あて
公園 安祥城址	5日	■クイズラリー ■さとのマルシェ ■勾玉づくり	東尾八幡社で 秋のご朱印頒布	展示	■歴史のひろば展(小・中学生の歴史の自由研究を展示)	■特別展 「国絵図の世界 ～描かれた江戸時代の三河～」 観覧料 500円(中学生以下無料) ■常設展 博物館ボランティアガイド			
	6日				■発掘のあゆみ展などの歴史展示 ■市民ギャラリー企画展 「Flora 市民ギャラリーを彩る草と花」				

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展 Flora 市民ギャラリーを彩る草と花



鶴田裕子《夏の記憶》



柴田崇史《風に吹かれて》

これまで本市では、地元ゆかりの美術作家の  
作品を収集してきました。本展では、「植物」  
をテーマに、市民ギャラリーのコレクションの  
中から選りすぐった作品と、市内小中学校か  
ら寄せられた作品を併せて紹介します。

【開催期間】 令和6年10月4日(金)～10月14日(月・祝)  
 【休館日】 月曜日※10月14日(月・祝)は開館  
 【時間】 9:00～17:00  
 (最終日は16:00まで/入館は30分前まで)  
 【会場】 市民ギャラリー展示室D・E  
 【観覧料】 無料

### 安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の  
居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地  
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00  
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00  
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00  
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00  
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館

URL / <https://ansyobunka.jp/>



国絵図で旅する  
300年前の三河。

# 特別展 国絵図の世界

令和6年  
9.28(土)  
~11.10(日)

【休館日】毎週月曜日 ※10月14日、11月4日は開館

【開館時間】9:00~17:00 (入館は16:30まで)

【観覧料】500円 ※中学生以下無料  
※団体(20名様以上):400円

~描かれた江戸時代の三河~

中世・近世には、地理やある場所を図的に表現したものを「絵図」と呼んでいました。江戸幕府は、国内統治の基本である国土の把握のため、「尾張国」や「三河国」といった旧国単位の「絵図」、すなわち「国絵図」の作成を主要大名に命じました。本展では、令和四年度に新たに収蔵した「寛文三河国絵図」をメインに、さまざまな三河国絵図を読み解きます。

## 国絵図とは

江戸幕府による国絵図作成の命令は、慶長九年(二六〇四)、正保元年(二六四四)、元禄十年(二六九七)、天保二年(二八三三)の四度ありました。一般的に国絵図は、これらの作成時期の元号を冠して「慶長国絵図」などと呼ばれます。

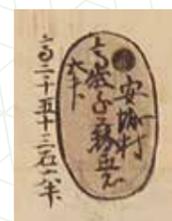
国絵図は、二回目の正保期の作成時から、縮尺が六寸一里(二万二六〇〇分)の二と決まり、二辺が数mもある巨大なものになりました。また、精度は高くありませんが測量をした結果が反映されている一方で、山や川などの自然、寺社や城などランドマークとなる建



【図1】寛文三河国絵図(本館蔵)  
鳳来寺(新城市)部分



【図3】元禄三河国絵図(愛知県図書館蔵)愛知県指定文化財  
作成した大名の手元に残された控図です。大きさは441×370cmもあります。



【図2】寛文三河国絵図  
安城村の村形

●安城村  
高式千五拾五石  
六斗

造物は絵画的に表現されています【図1】。楕円(小判形)の中に村名と石高を記入したものを村形と呼び、最初の慶長期から使われている村の表現方法です【図2】。他に、郡ごとに田畠数・石高・村数を記載すること、国境の記載は間違えないよう特に気を付けること、道と川を区別するための色分けすること、山は山らしく着色すること、などの約束事がありました。

また、一口に国絵図と言っても、現存するものには、幕府に提出された原本(清絵図)もあれば、作成の際の下書き(下図)、国元で保管された控図

【図3】や写図とさまざまなものがあります。さらには、別の目的に利用するために写したものもあり、この場合、情報は取捨選択され、加筆されていることもあります。

江戸時代には、広く一般に向けた国絵図も刊行されました【図4】。十七世紀後半には旅が庶民に定着したこともあり、人々は各地の地理情報に関心を寄せるようになりました。印刷技術の進歩により、さまざまな日本図や地域図が刊行されるようになりました。

## 寛文三河国絵図を読む

ところで本展の主役は、「寛文三河国絵図」です。冒頭で国絵図の作成は、慶長・正保・元禄・天保の四度と述べました。実は正保国絵図は、明暦三年(二六五七)の大火ですべての国絵図が焼失してしまったため、寛文年間(二六六一~二六七三)に幕府

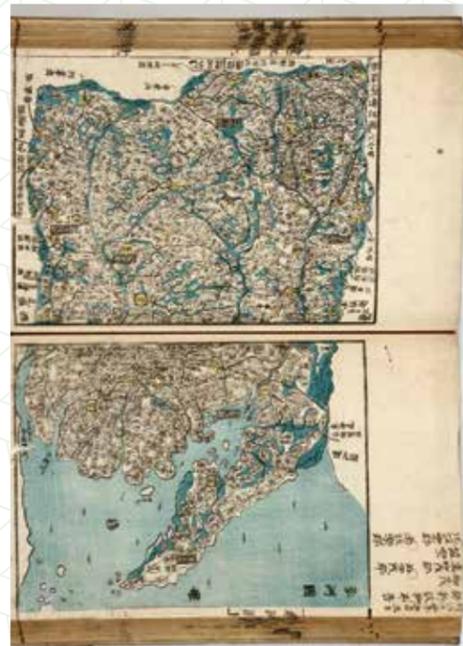
が、正保国絵図の再提出を命じました。多くの大名は、国元にあった正保国絵図の控図をそのまま写して再提出したようですが、内容を修正して再提出した国もあつたようです。この本館の三河国絵図は、寛文期に再提出された三河国絵図の写図【図5】というわけです。

寛文三河国絵図の見どころのひとつは、江戸時代前期の地形を知ることができるという点です。慶長十年(二六〇五)、西三河を流れる矢作川の下流域の洪水対策のため、幕府は木戸村(安城市)から米津村(西尾市)まで新たに流路を開削し、現在の矢作川の流路になりました。しかし、新たな流路の勾配が急で流れが良かったため、わずか数十年で河口に州がで

き、州は内海だった油ヶ淵を海から切り離すように堆積していききました。そして、正保二年(二六四五)に米津村から鷲塚村(碧南市)にいたる堤防が完成したこと、油ヶ淵は完全に湖沼化しました。寛文三河国絵図には、堤防が完成し海と隔絶された当時の油ヶ淵の姿が描かれています。また、正保三年に廃川となった矢作川の旧流、弓取川(西尾市)が、まだ描かれています【図6】。

寛文三河国絵図の見どころは、他にもたくさんありますので、ぜひ会場に足を運んで楽しんでください。ただだれも気付いていない興味深い部分が見つかるかもしれません。

(文責:後藤麻里絵)



【図4】「三河図」「国郡全区」(西尾市岩瀬文庫蔵)  
刊行本としては初めての国絵図集です。しかし、誤りが多くみられます。



【図5】寛文三河国絵図(本館蔵)  
大きさは、383×338cmもあります。



【図6】矢作川河口と油ヶ淵

特別展

# 地震と災難

—宝永地震から三河地震まで—

令和6年

11.30 [土]

令和7年

~1.19 [日]

【休館日】  
毎週月曜日、  
12月28日(土)  
~1月4日(土)

※1月13日は開館

【開館時間】  
9:00~17:00  
(入館は16:30まで)

【観覧料】  
500円 ※中学生以下無料  
※団体(20名様以上:400円)

昭和二十年(一九四五)一月十三日に三河地震が発生してから、まもなく八〇年を迎えます。古くから日本は地震が頻発しており、巨大地震が度々起きています。強い揺れだけではなく、火災や津波などによって、大きな被害がもたらされています。

地震が起きた後の人々の対応は時代によって変化しています。それは社会の変化や、技術の進歩、経験の蓄積によるものです。残された震災に関する資料から、当時の人々が災難を乗り越えてきた様子がうかがえます。

今回の展示では、江戸時代中期の宝永地震から戦時中の三河地震までを対象とし、人々が震災という災難に対処する様子を紹介します。

## 近世の巨大地震

日本最大級の地震と推定される宝永地震は、宝永四年(一七〇七)十月四日に発生しました。南海トラフ沿いが震源域と考えられ、畿内、東海道、南海道に大きな被害を受けました。

この地震によって東海道の今切(静岡県湖西市)の渡船路が決壊し、旅人は東海道を避けて脇街道である本坂通(静岡県浜松市)を通るようになりしました。その後、今切の渡船路が復旧しても東海道に人が戻らなかつたため、本坂通を通行禁止にするなど、地震によって交通・流通にも影響が出ました。

災害発生後の対応を行っていました。

安政南海地震では再び大津波が各地を襲いました。特に大坂では、内陸型地震である嘉永七年六月十八日の伊賀上野地震で、川の船の上に避難をして無事だった経験から、今回の地震でも多くの人が船の上に避難しましたが、今回の地震では津波の河川遡上によって船同士が衝突し多数の死者を出しました。現在の大阪市に残されている石碑には宝永地震でも同様に船の上で逃げ水死したという話があったものの、長い年月が経ちそれを知る人がいないために再び犠牲者を出してしまつたと書かれています。この大坂の津波被害については瓦版が多数出回り、また、各地に書き残されています。

安政二年(一八五五)十月二日には、安政江戸地震が発生しました。この地震では、地震を鯨に例えた鯨絵や、江戸の被害を知らせる瓦版などの記録が膨大な数を確認することができます。後にこの被害をまとめた本や、地震予防とその仕組みについて書かれた本が出版されるなど、地震にまつわる情報が求められるよう



嘉永七寅年十一月四日五日 諸国聞書  
大坂大地震二編 井大津波 (刈谷市中央図書館蔵)

になりました。安城市域から江戸に奉公へ行った人たちの手紙にも被害の様子が書かれていたり、領地に住む人々へ江戸屋敷の様子が届けられるなど、様々なルートで被災地以外にも情報が伝わりました。

高瀬村(和歌山県白浜町富田地区)には、大津波に襲われた時の被害の様子が書かれた警告板が残されています。板には、地震が来たら山へ逃げることや、この教訓を毎年行われる祭礼の際に村人に読み聞かせるようにと書かれています。



津波警告板(和歌山県白浜町富田地区蔵)

文政十三年(一八三〇)七月二日に文政京都地震が発生し、京都市街を中心に大きな被害がありました。西三河地域では浄土真宗の門徒が多いため、本山の東本願寺から報告が届いていました。報告書には建造物の倒壊被害やそれに巻き込まれた犠牲者などが書かれています。本山へ献金している様子がうかがえます。

善光寺地震はその名の通り長野県の善光寺平を中心に被害を与えました。地震が発生した弘化四年(一八四七)三月二十四日は善光寺の御開帳のため、善光寺参詣が盛んであった三河の

## 近代の地震被害

明治二十四年(一八九二)十月二十八日に発生した濃尾地震は、国内で計測された中で最大の内地地震でした。被災状況は錦絵に加え、新しいメディアだった写真、新聞などを通じて伝えられました。また、帝国大学医科大学の教授や学生、日本赤十字社の医員や看護師の派遣があり、新聞上では義援金の募集を行い民間人から寄付を募りました。

また、軍隊では軍医や兵士を派遣し被災者の収容や救済物資の供給を行いました。当時の軍隊の非常配備はあくまで暴動が起きたときのためのもので、地方官の指示のない出兵は違反だったものの、第三師団長だった桂太郎が判断し、支援活動がなされました。濃尾地震後には地方官の要請がなくとも出兵が可能となり、以後、災害時に軍隊による救援活動が多くみられるようになりました。

大正十二年(一九二三)九月一日の関東大震災では、三河地域には被害がありませんでしたが、故郷から出て関東で生活している人々が被災地から帰郷する動きがみられました。

昭和十九年十二月七日の昭和東南海地震では、愛知県が一番多くの死者を出し、多くは倒壊した工場の下敷きになり亡くなりました。碧海郡でも建造物の倒壊が相次ぎ、死者二〇名、負傷者九〇名でした。

わずか一月後の昭和二十年一月十三日に三河地震が発生しました。東南海地震の復興のさなかであり、震源近くの碧海郡、幡豆郡、宝飯郡で特に大きな被害が出ました。市域では桜井村の南端と明治村が震度七、それ以外が震度六と推定され、桜井村と明治村の死者数と全壊住家数

人々も含め数多くの旅人が訪れていました。門前での家屋倒壊や火災では旅人も多く犠牲になりました。山崩れを起こして川をせき止める河川閉塞が起こりました。松代藩では、早急に被災情報を集め、余震を記録したり、寛永三年(一六二六)以降の様子を絵に残すなど、災害を細かく記録していました。善光寺地震では瓦版が発行され、被災地以外の人々にも被害の様子が伝わりました。

## 幕末の不安と地震

嘉永・安政年間には大きな地震が頻発し、外国船の来航などが相次ぎ、社会不安が高まっている時期でした。特に南海トラフ沿いが震源域とされる嘉永七年(一八五四)十一月四日の安政東海地震、五日の安政南海地震は立て続けに巨大地震が発生し広範囲に影響を及ぼしました。安政東海地震では、東海道を中心に大きな被害があったため、宿場の火災や、津波などで不通の区間があるなど、交通にも影響が出ました。津波に襲われた沼津(静岡県沼津市)では、流されて亡くなった人の捜索願や流された物品についての尋ねを村々で回覧し、返信が添付されていました。駿府(静岡市)の町方では町奉行や町役人たちが被災者に炊き出しを行ったり、米や復興に必要な木材などの物価高騰の禁止命令を出すなどの



家屋の倒壊写真(寄近町) (西尾市教育委員会蔵)

はそれぞれ、碧海郡全体の約六割、五割近くを占めていました。当時は学童疎開が始まり、戦況の悪化や物資の不足により配給制が行われていた状況で、短期間に二度の大地震の被害を受けました。

また、食料や生活必需品の特別配給や、復旧作業用の木材やセメントなどの配給が行われました。しかし、配給物資の運搬や、不足分の木材の調達などは町内会を中心に住民自ら行いました。

地震が起きた後の対応は時代ごとに変化していますが、被災直後の動きは共通しています。それぞれ個人が身を守る行動をし、被害状況を把握し、周囲と協力して救助活動をしたり、自分たちで復旧作業を行っています。震災が起きた際に自分はどう行動できるか。そのヒントを過去の教訓から得てみるのはいかがでしょうか。

(文責:本部はる香)

# 安城にゆかりのある人々1

連載  
ミスターVHS・高野鎮雄  
文責・小田健二（安城市歴史博物館館長）

歴史に関心のある方は、歴史の何に魅力を感じたり、興味をもったりしているのでしょうか。私は、過去に生きた人々の生き方に一番興味をもっています。歴史は過去に生きた人々の足跡の積み重ねです。いつの時代も多くの人はよりよく生きようと努力してきたはずで、そうした先人の生き様に心引かれ、自分の生き方を考えてみるきっかけになることもあります。今回この「れきしみち」に連載記事を書かせていただく機会をいただきました。そこで、これから「安城にゆかりのある人々」を取り上げて、私の関心のある人物をご紹介します。ただきたいと思います。



高野鎮雄さん

心にいたのは、安城市出身の方でした。本連載の第1回には、「ミスターVHS」と呼ばれた高野鎮雄さんを取り上げます。

高野さんは大正十二年（一九三三）、愛知県碧海郡依佐美村（現在の安城市）に生まれました。旧制刈谷中学校、浜松高等工業学校を卒業し、昭和二十二年（一九四六）四月に日本ビクターに入社しました。一九七〇年代は家庭用VTRの開発競争の時代で、ソニーのベータが二歩リードをしていました。昭和四十五年高野さんはVTR事業部長に就任しました。当時のVTR事業部はリストラ寸前の部署で、主に業務用のVTRを売り歩いていました。そして、昭和四十七年ビクターは



家庭用VHS機器とテープ

高野さんはこのVHSを世に広めるために、試作機を無条件で他の電機メーカーに貸し出すことで、各メーカーがさらによりよいものになるよう改良を加えることになりました。そして、昭和五十二年九月、ビクターは遂に二号機を発表しました。さらに高野さんは海

人員整理と家庭用VTRの開発部門の中止を決定しました。しかし、高野さんは、本社の決定に従わず、横浜工場で極秘に数名の技術者とともに家庭用VTRの開発をスタートさせたのです。当時、消費者が求めていた家庭用VTRの小型化と長時間録画を求めて研究を進めました。しかし、先に家庭用VTRの開発に成功したのはソニーで、昭和四十九年十二月のことでした。それに遅れること八ヶ月、昭和五十年八月にビクターも最終試作機が出来上がりました。ソニーのベータより五キロほど軽いものでした。高野さんはそれを親会社である松下電器の相談役である松下幸之助氏に見てもらいました。それを見て、松下氏は次のように言われたそうです。「いいものを開発してくれたね。ベータは百点満点だ。しかし、VHSは百五十点だ。」

外のメーカーとも次々と契約を結び、VHSは家庭用VTRの世界標準規格となっていくました。平成五年（一九九三）までの累計を見ると、VHSの生産台数は約七億七千万台にも達していました。高野さんは常々「ビデオは感動を伝え、人々の夢を育てる商品だ。」と言っていたそうです。高野さんが副社長を退任した平成二年、ビデオ事業部の人たちによる「感謝の集い」が開催されました。その会で高野さんは次のように述べたそうです。「私の人生の中で最も充実した、なんというか、懸命というか、夢中でした。夢中というのはたいへんすばらしいことだと思います。……ぜひ皆さんも何でもいいですから、夢中になってください。」

この会の二年後、平成四年二月に高野さんは、逝去されました。享年六十八才でした。時代の移り変わりは早く、今はサブスク全盛で、好きな時に好きな場所で映画などを見ることが出来ます。今後、安城市から、世界中の人たちを魅了するような商品を創造する若者が現れることを期待してやみません。

（参考）  
・NHKプロジェクトX挑戦者たち 窓際族が世界規格を作った  
「夢中で……ミスターVHS・高野鎮雄さんを偲ぶ」（一九九四）

## 第14回松平シンポジウム

### 家康は国替なざるべきにおひては関東に替へ給へ

家康三河最後の一年

11月2日(土) 13時〜17時

12時30分開場

《会場》安城市中心街地拠点施設  
アンフォーレホール

#### 当日受付

《定員》230人(先着)

《参加費》100円

《出演者》

コーディネーター

山田邦明氏 (愛知大学教授)

パネリスト

山下智也氏 (刈谷市歴史博物館学芸員)

佐藤貴浩氏 (足立区地域文化課文化財係学芸員)

谷口央氏 (東京都立大学教授)

〔三河物語下〕  
〔国立公文書館蔵〕

## 特別展関連イベント

### 特別展 地震と災難

―宝永地震から三河地震まで―

#### 記念講演会

安政東南海地震に学ぶ  
―地震・津波被害の実態理解を通じて―

〔日時〕12月14日(土)14:00〜  
〔講師〕谷口央氏 (東京都立大学人文社会学部教授)

#### 歴博講座

史料からみる三河地震

〔日時〕12月8日(日)14:00〜  
〔講師〕本部はる香 (本館学芸員)

#### 防災体験デー「みんなでまなぼうさい」

〔日時〕12月7日(土)10:00〜14:00  
〔場所〕歴史博物館・安祥城址公園  
〔内容〕災害救援車両の展示や防災ゲーム体験など  
防災について楽しく学ぶイベントを開催します。

#### 災害時に役立つ防災クッキング

〔日時〕12月15日(日)10:00〜12:00  
〔講師〕岡田公夫氏、田所登代子氏 (安城防災ネット)  
〔定員〕20名(事前申込み先着順)  
〔参加費〕500円  
〔場所〕歴史博物館 体験学習室  
〔申込〕11月24日(日)9:00〜電話受付

## 国絵図の世界

～描かれた江戸時代の三河～

#### 記念講演会

元禄三河国境縁絵図と元禄日本図

〔日時〕10月12日(土)14:00〜  
〔講師〕種田祐司氏 (名古屋城調査研究センター)  
〔定員〕60名

※記念講演会の空席情報につきましてはお問い合わせください

#### 歴博講座

新収蔵! 三河国絵図を深掘りする

〔日時〕11月9日(土)14:00〜  
〔講師〕後藤麻里絵 (本館学芸員)  
〔定員〕60名

#### 展示担当学芸員に教わる国絵図測量体験

〔日時〕①10月26日(土)10:00〜11:00  
②11月3日(日)10:00〜11:00  
〔定員〕各日6名程度(事前申込み先着順)  
〔申込〕①10月8日(火)9:00〜電話受付  
②10月13日(日)9:00〜電話受付

### 常設展無料開館

11月22日(金)

愛知県民の日学校ホリデーにちなみ  
常設展が無料となります



### 1日 子ども学芸員体験

〔日時〕①勉強会  
12月1日(日)9:30〜12:00  
②学芸員体験  
12月14日(土)9:00〜13:00  
〔申込〕11月10日(日)9:00〜電話受付  
〔定員〕20名  
〔対象〕小学校4〜6年生・中学生  
〔協力〕安城学園高校 学び探究部

### さとのマルシェ

・10/14(月・祝)  
・11/2(土)  
・11/30(土)  
10:00〜15:00



※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合があります。最新情報はHPIにてご確認ください。

申込み・問合せ 歴史博物館 TEL:0566-77-6655